

漫者談念藤
江戸

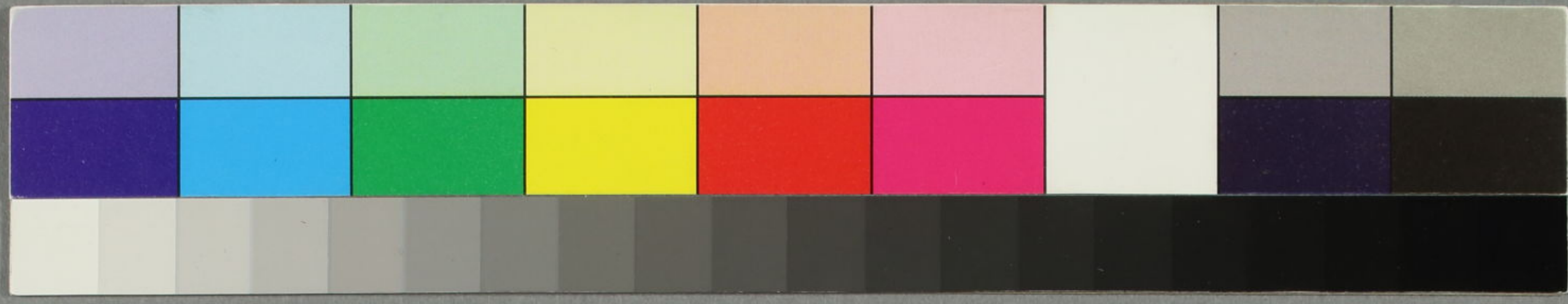
漫者談念藤
太坂

漫者談念藤
京

推位
四十五

特別
千13
3849
25





3849
25

25

後者あきしや後合だんごう孫そご



藝ぎ承じやう安あん月げつ孫そご



のりなり後者あきしや後ご中ちゆうはは後ご大だい孫そご

ひひいい速すみ中ちゆうががててとと打うち出でたた地ぢ

角かくののいいれれづづんんをを

ああららててもものの舞ぶ臺たいのの切きり

踏ふみ上うへのの俵わた敷しき

納のこまるまる金かね銀ぎんハ

黄わう飛ひ比ひ伎ぎ衣い入いり

京きやう口くち

カニ



上上 嵐 二回帝 保松社

上上 尾上門帝 保松社

上上 市川十帝 保松社

上上 小倉山千帝 保松社

上上 中村正帝 保松社

上上 上村新十帝 保松社

上上 深川三十帝 保松社

上上 深松七三帝 保松社

▲実徳三郎

上上書 桐澤信左衛門 保松社

上上 坂東又帝 保松社

上上 坂東海彦 保松社

上上 友川八彦 保松社

▲歌後之部

上上書 依川今又帝 保松社

上上 松平友十帝 保松社

上上 嵐七又帝 保松社

上上 嵐 依登八 保松社

正布持河内守良房

▲実徳三郎

上上 市川 森 彦 深松元

上上 沢村 徳 又 帝 沢村元

上上 藤 塚 隆 實 藤塚元

上上 上 浦 山 七 又 良 彦 上浦元

上上 上 中 村 又 三 良 彦 上中村元

上上 上 野 田 彦 九 帝 上野元

上上 年 忌 一 万 助 年忌元

上上 芳 方 沢 田 良 七 芳方元

上上 氏 清 千 壽 氏清元

上上 友 川 忠 義 友川元

▲ 若 女 形 之 部

上上 本 吉 嵐 小 六 深松元

上上 三 原 浪 江 三原元

上上 林 山 田 康 彦 帝 林山元

上上 依 藤 川 甚 彦 依藤元

上上 久 木 長 三 帝 久木元

上上 山 下 大 三 帝 山下元

上上 沢 村 五 郎 帝 沢村元

上上 生 清 大 長 生清元

上上 泉 子 七 八 九 二 四 段 泉子元

上上 中村千三郎 深松

上上 玉村舟之助 深松

上上 風韻 物 深松

上上 藤塚卯之吉 深松

上上 深松重次郎 深松

上上 玉沢安又郎 深松

上上 坂本兼重 深松

上上 佐野川為松 深松

上上 兼重 深松

▲高元形之邪

上上 名庭松之助 深松

上上 龜谷十次郎 深松

丹前 三井他人 深松

上上 名庭春之助 深松

▲深松合社及子之分

一 深松合社 深松

一 深松小仙 深松

一 深松重次郎 深松

一 深松兼重 深松

一 深松舟之助 深松

▲同姓及び分

- 一 萩原村常市
- 一 三條小島常市
- 一 萩原村常市
- 一 今村常市
- 一 尾上久常市
- 一 中村正久良
- 一 一葉忠谷常市
- 一 玉沢小三郎

大上吉

惣巻軸

極上吉

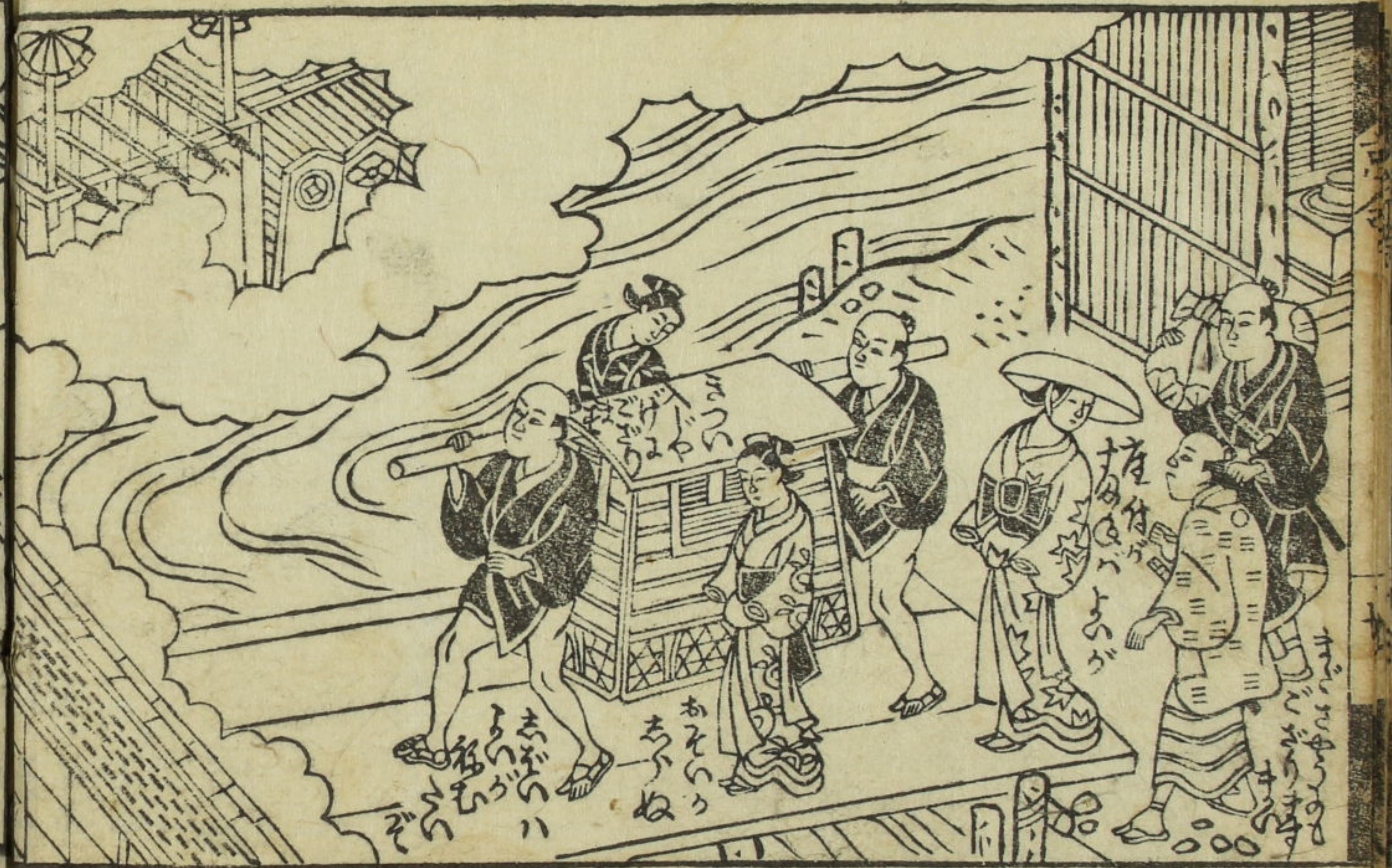
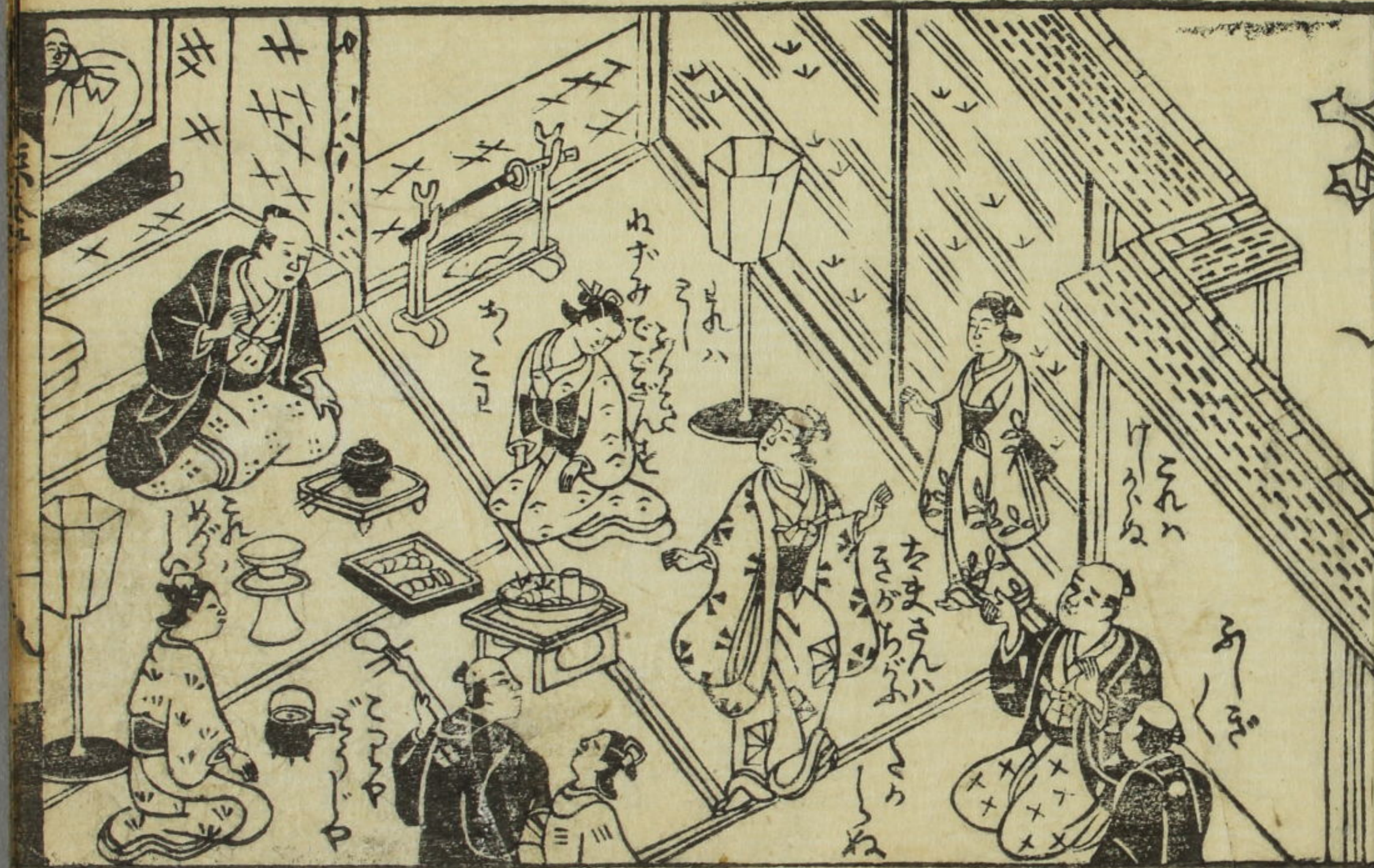
藤原川平九郎

中村徳三郎
尾上
中村正久良
一葉忠谷常市
玉沢小三郎


以上

○子孫の輩向

萩原村常市の子孫は、中村徳三郎の子孫は、尾上小島常市の子孫は、今村常市の子孫は、尾上久常市の子孫は、中村正久良の子孫は、一葉忠谷常市の子孫は、玉沢小三郎の子孫は、藤原川平九郎の子孫は、以上の子孫は、



Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of a letter or document.

上上吉  坂本吉三郎 一箱 一箱

Handwritten text in a cursive script, including several boxed characters and a signature at the bottom.

Handwritten text in a cursive script, including several boxed characters.

上書  坂本吉三郎

Handwritten text in a cursive script, including several boxed characters and a signature at the bottom.

之年のりあめ

上上 嵐二日帝 繼元

高野山に言ふ事相の事傳ふ所は
此の事乃ちその傳ふ所は其の事
高野の事相の事傳ふ所は其の事
てその事相の事傳ふ所は其の事
と其の事相の事傳ふ所は其の事
てその事相の事傳ふ所は其の事

上上 尾上 敬也 帝 元

高野山に言ふ事相の事傳ふ所は
此の事乃ちその傳ふ所は其の事
高野の事相の事傳ふ所は其の事
てその事相の事傳ふ所は其の事
と其の事相の事傳ふ所は其の事
てその事相の事傳ふ所は其の事

高野山に言ふ事相の事傳ふ所は
此の事乃ちその傳ふ所は其の事
高野の事相の事傳ふ所は其の事
てその事相の事傳ふ所は其の事
と其の事相の事傳ふ所は其の事
てその事相の事傳ふ所は其の事

上上 回 市川 武十郎 元

高野山に言ふ事相の事傳ふ所は
此の事乃ちその傳ふ所は其の事
高野の事相の事傳ふ所は其の事
てその事相の事傳ふ所は其の事
と其の事相の事傳ふ所は其の事
てその事相の事傳ふ所は其の事

此の歳終に於ては... 上上 上村新十郎

上上 上村新十郎

上上 上村新十郎

上上 上村新十郎

上上 上村新十郎

上上 上村新十郎

上上 上村新十郎

上上 上村新十郎

上上 上村新十郎

上上 上村新十郎

上上 上村新十郎

上上 上村新十郎

上上 上村新十郎

上上 上村新十郎

上上 上村新十郎

上上 上村新十郎

上上

竹田門在船尾

上上 女飛之那

上上吉

竹田千太郎

上上吉

竹田源之助

上上

竹田真直

在之外居者界之 東之巻次

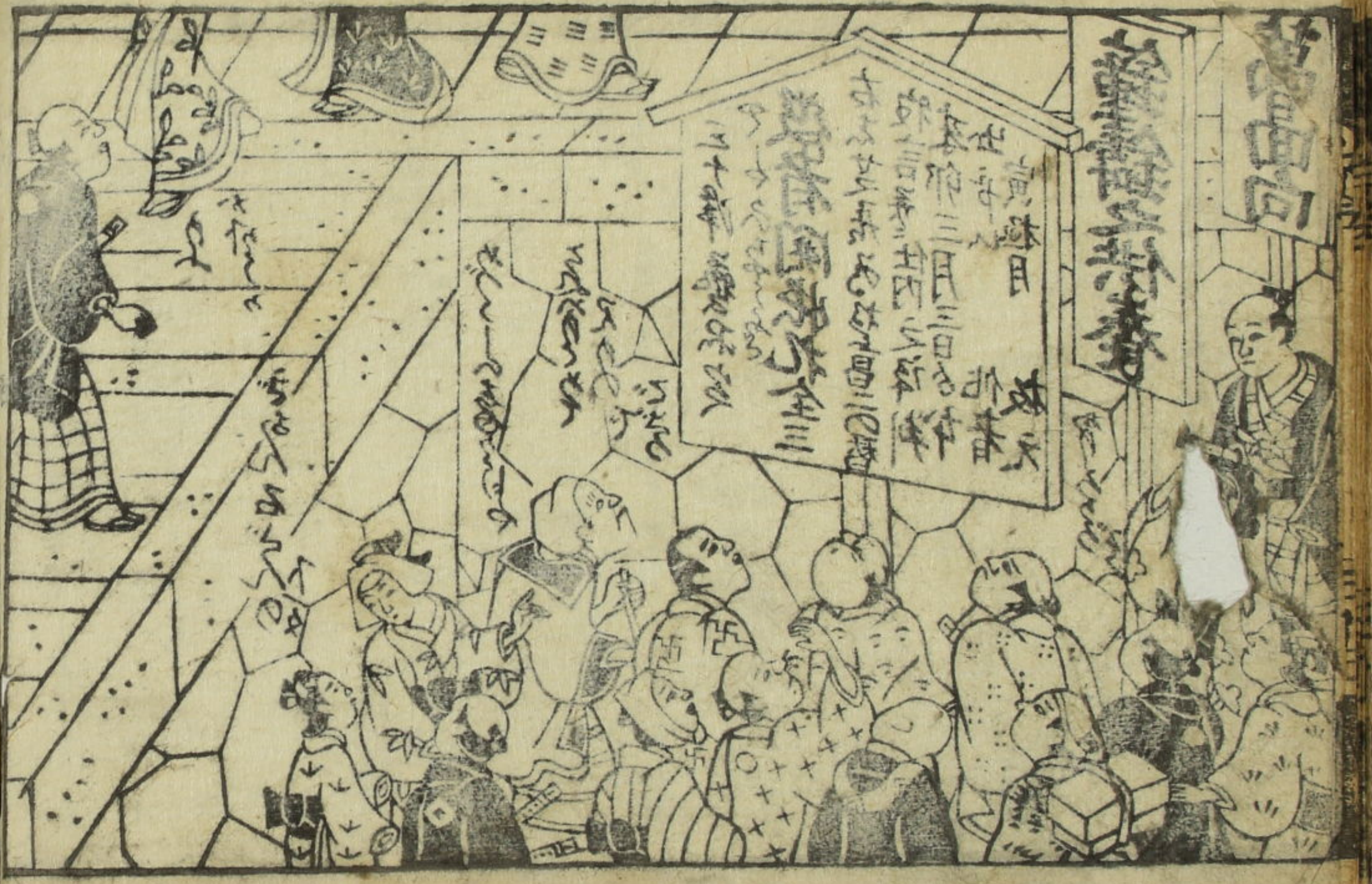
宝曆九年

卯酉月吉日

未越屋河村長右衛門

八雲寺主人





没者終合膝
 大坂書

藤巻忠実同録

約々たるあびす結

とうびつぎるる
 上橋坂の
 四振舞

挑能と物等のいふなりた
 初の新巻

口とよむと
 立り方
 手打連中

翁うせ格と
 懐箱の火綱

あひくの送箱
 さいしつ割念の通路

道好物の糖ひと

新の肉は素肉

吹付る千枝の膏うすい

三月乃十日燈子

糸指交さあうる和の言

おんて飛る芝居好の

音さ洞

ふさぬ酒の畔搦屋と

和商ひの巻のそふ

舟て飛る怪らす和の文入れ

けて金と色紙かおりと付る

紙網へけ合とみ百目包

紫千方の納りつと

和紙への納り粉と

大坂三宮橋敷後者同跡

長代大和登喜屋筋中嵐吉三帝

長次福永老衆の在幸中山文七

▲黒吉四天王之部

○見立支俵づつたのどー

持國 市川圓蔭 流丸

小まあれども無量の 細骨

増長 山下又三帝 日丸

くさふて難波へ戻り 足

麴目 山平系四帝 日丸

敷波の工とたおと 鼻

新門 中山新五帝 流丸

か幸い書てもあはれの 眼

▲立波之部

上吉 中山文七 流丸

新巻の文入り笑の 扇

上吉 市川丸三帝 流丸

女中丸三帝 流丸

上上書 中村四喜又節 中山社

上上書 沢村惣十郎 日社

上上書 松山二十郎 日社

上上書 中山東助 日社

上上書 嵐吉三郎 日社

上上書 上村松助 日社

上上書 上村孝節 日社

上上書 上村成節 日社

上上書 三井大次郎 中山社

上上書 深川比呂清 日社

上上書 山下次郎 中山社

上上書 坂東岩又節 中山社

上上書 三井大次郎 日社

上上書 三井大次郎 日社

上上書 三井大次郎 日社

上上書 三井大次郎 日社

上上書 三井大次郎 日社

上上書 三井大次郎 日社

上上書 三井大次郎 日社

言

九二

歌をよみてあつたつゝの

十益子さうりぬら

久しふあつたつゝの

つゝもは肉の懐ごころ

知社奉の氣あつて行の若類

上村松助の氣あつて行の若類

上村孝節の氣あつて行の若類

上村成節の氣あつて行の若類

三井大次郎の氣あつて行の若類

深川比呂清の氣あつて行の若類

山下次郎の氣あつて行の若類

坂東岩又節の氣あつて行の若類

三井大次郎の氣あつて行の若類

三井大次郎の氣あつて行の若類

三井大次郎の氣あつて行の若類

三井大次郎の氣あつて行の若類

三井大次郎の氣あつて行の若類

三井大次郎の氣あつて行の若類

▲飛車飛之部

上上 坂田文十郎 中山丸

後室の家の子れん 殿

上上 山科彰太郎 飛車

相成の役とらわぬ 助

▲若女飛之部

上上 芳澤清之助 飛車

法華とみまわす 助

上上 中村伝次三郎 飛車

三郎とあつちとぬ 助

上上 中村久米太郎 飛車

京歌の楽年知あてか 助

上上 姉川大吉 飛車

足るさあひつゝ 助

上上 嵐歌又市 飛車

いろとあつちとぬ 助

上上 山下金作 飛車

上子の鳥といふとく 助

上上 三石川才彦 飛車

ふれとわがことおてとる 助

上上 中村小作三 飛車

まふあての法とる 助

上上 桐屋谷秀松 飛車

去年の足と今年にぬつ 助

上上 嵐松之助 飛車

つくわじと代目の 助

上上 姉川みかど 飛車

まごはくさる 助

上上 中村八花 飛車

まごまごさる 助

▲飛車及子と分

一 中村松次郎 飛車

一 中村小吉三郎 飛車

一 嵐小舟 飛車

一 市川英太郎 飛車

一 小坂川の人 日

▲中山村の分
 一 千本布松 一 市村の八
 一 中山小吉 一 尾久米松
 一 市山七松 一 中山小吉
 一 中村小深

▲尾久米松

小川若吉 中村

上吉

定小吉の八弾判のひら

十本葉書 日記

は内小吉のひら

上

婦川新四郎 日記

叔もめんのまのう

大坂浪三三居熱後者同縁

▲立役之部

○実取款及外苑車馬記

上吉

竹回与市 日記

上吉

竹回吉吉 日記

上吉

竹回金吉 日記

上吉

鬼谷松八 日記

上吉

鬼谷竹吉 日記

上吉

竹回栄吉 日記

上吉

鬼谷跡吉 日記

上吉

鬼谷十吉 日記

上吉

竹回徳八 日記

上吉

鬼谷乙吉 日記

上吉

鬼谷惣吉 日記

上吉

竹回平吉 日記

上吉

竹回千六郎 日記

上吉

竹回友三郎 日記

上吉

鬼谷吉之介 日記

上吉

市松川春吉 日記

上吉

鬼谷万助 日記

上吉

鬼谷吉八 日記

上吉

鬼谷新吉 日記

上吉

鬼谷源吉 日記

一 龜谷古良 一 龜谷古げ松
 一 龜谷古六 一 龜谷源二良
 一 龜谷今三良

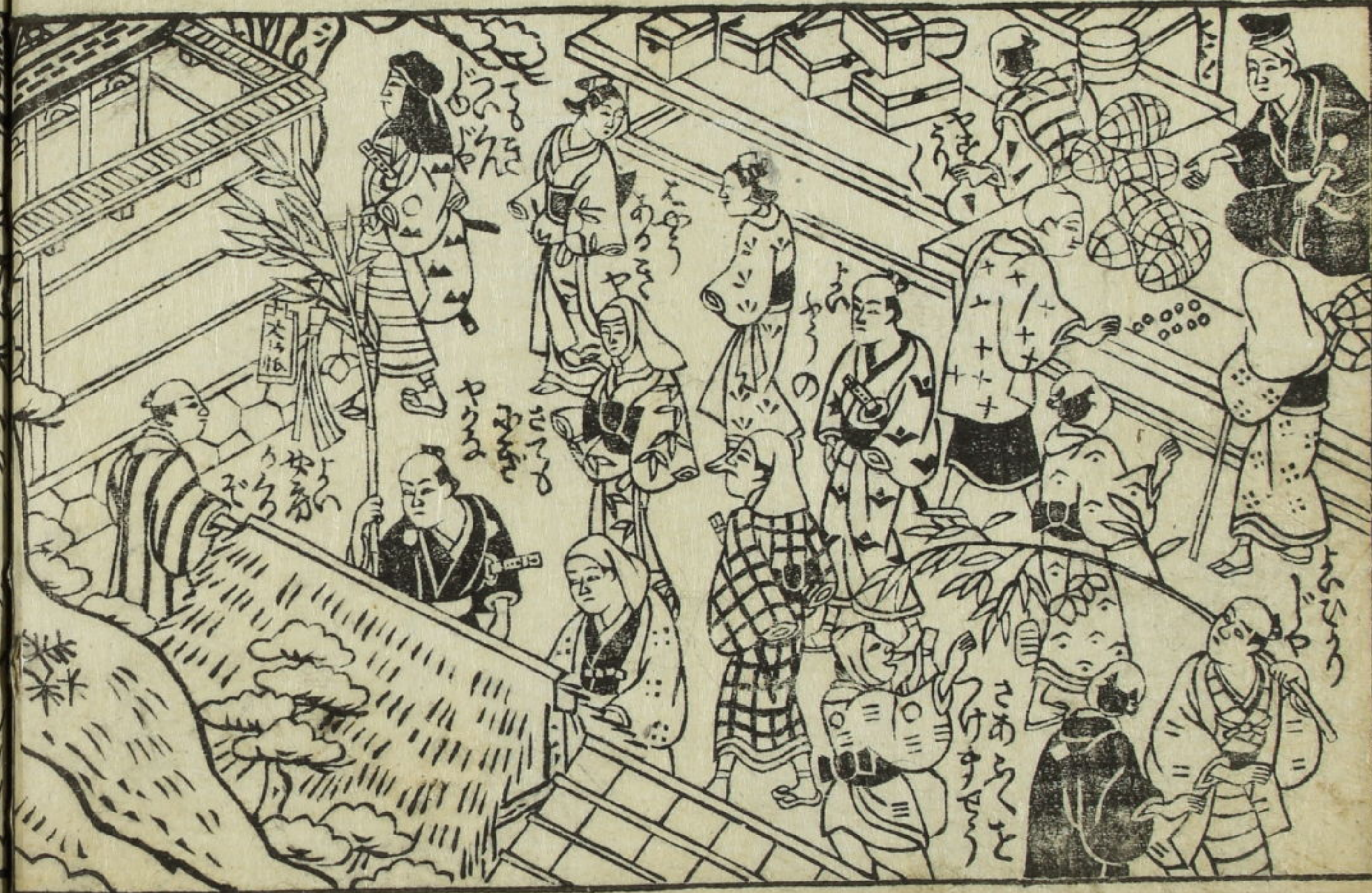
▲ 名女形之部

上書 嵐 冬 雲 二并記
 上書 山下三 八 龜谷記
 上書 三條木市古席 日記
 上書 市旗川百古席 古記
 上書 十本金古文 古記
 上書 岩井八十七 日記
 一中村百松 一大和川龜松
 一 坂川小古

以上

○ 遠山同天北雪原の高

此雪原の地味は極難をわらふべし
 事て出入人元々も取せり
 十日の夜も入りの地味もが年
 後よりくさむも掛りの地味も
 の地味もあつた日の地味も
 此雪原の地味もあつた日の地味も
 後方への地味もあつた日の地味も
 日暮りへの地味もあつた日の地味も
 夜更けへの地味もあつた日の地味も
 朝の地味もあつた日の地味も
 午の地味もあつた日の地味も
 夕の地味もあつた日の地味も
 夜の地味もあつた日の地味も
 朝の地味もあつた日の地味も
 午の地味もあつた日の地味も
 夕の地味もあつた日の地味も
 夜の地味もあつた日の地味も



見申して人多く致すべしといふ

廣目  山本 宗信 郎 萬九

 山本 宗信 郎 萬九


此の書は、 山本 宗信 郎 萬九

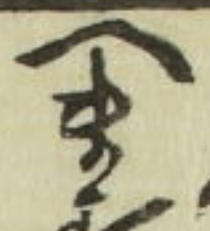
此の書は、 山本 宗信 郎 萬九

此の書は、 山本 宗信 郎 萬九

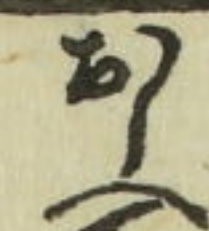
此の書は、 山本 宗信 郎 萬九

此の書は、 山本 宗信 郎 萬九

此の書は、 山本 宗信 郎 萬九

此の書は、 山本 宗信 郎 萬九

此の書は、 山本 宗信 郎 萬九


此の書は、 山本 宗信 郎 萬九


此の書は、 山本 宗信 郎 萬九

此の書は、 山本 宗信 郎 萬九

此の書は、 山本 宗信 郎 萬九


此の書は、 山本 宗信 郎 萬九

此の書は、 山本 宗信 郎 萬九

此の書は、 山本 宗信 郎 萬九

此の書は、 山本 宗信 郎 萬九

此の書は、 山本 宗信 郎 萬九

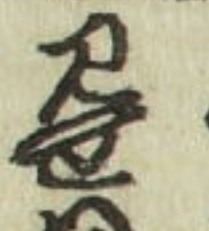
此の書は、 山本 宗信 郎 萬九

此の書は、 山本 宗信 郎 萬九

此の書は、 山本 宗信 郎 萬九

此の書は、 山本 宗信 郎 萬九

此の書は、 山本 宗信 郎 萬九

此の書は、 山本 宗信 郎 萬九

此の書は、 山本 宗信 郎 萬九

凡そこのそと東の國を及會衆を奉養
以村邊の國を奉養すは南地之國也
衆を奉養すは南地之國也
と云ふは衆を奉養すは南地之國也
との味方と云ふは南地之國也
いふは衆を奉養すは南地之國也
衆の衆衆元初は南地之國也

▲乃和之部

上上言 〇又書百物 凡そ

凡そこのそと東の國を及會衆を奉養
以村邊の國を奉養すは南地之國也
衆を奉養すは南地之國也
と云ふは衆を奉養すは南地之國也
との味方と云ふは南地之國也
いふは衆を奉養すは南地之國也
衆の衆衆元初は南地之國也

上上 〇又書百物 凡そ

凡そこのそと東の國を及會衆を奉養
以村邊の國を奉養すは南地之國也
衆を奉養すは南地之國也
と云ふは衆を奉養すは南地之國也
との味方と云ふは南地之國也
いふは衆を奉養すは南地之國也
衆の衆衆元初は南地之國也

▲花車形之部

上上 〇又書百物 凡そ

凡そこのそと東の國を及會衆を奉養
以村邊の國を奉養すは南地之國也
衆を奉養すは南地之國也
と云ふは衆を奉養すは南地之國也
との味方と云ふは南地之國也
いふは衆を奉養すは南地之國也
衆の衆衆元初は南地之國也

上上 〇又書百物 凡そ

凡そこのそと東の國を及會衆を奉養
以村邊の國を奉養すは南地之國也
衆を奉養すは南地之國也
と云ふは衆を奉養すは南地之國也
との味方と云ふは南地之國也
いふは衆を奉養すは南地之國也
衆の衆衆元初は南地之國也

▲若女形之部

上上言 〇又書百物 凡そ

凡そこのそと東の國を及會衆を奉養
以村邊の國を奉養すは南地之國也
衆を奉養すは南地之國也
と云ふは衆を奉養すは南地之國也
との味方と云ふは南地之國也
いふは衆を奉養すは南地之國也
衆の衆衆元初は南地之國也

上上 〇又書百物 凡そ

凡そこのそと東の國を及會衆を奉養
以村邊の國を奉養すは南地之國也
衆を奉養すは南地之國也
と云ふは衆を奉養すは南地之國也
との味方と云ふは南地之國也
いふは衆を奉養すは南地之國也
衆の衆衆元初は南地之國也

中上 上止 三尾川 大後 中上
此は此の地は勅令後美濃守下全
他は及至勅令と云ふ事下下内は此の
て諸藩のいふ事と云ふ事此の勅令を
今尚教令を宣ひの事ありて此の
彼事ありては此の事ありて此の
傳りて事ありては此の事ありて
此の事ありては此の事ありて
此の事ありては此の事ありて

上上 中村小作三 中上
此は此の地は勅令後美濃守下全
他は及至勅令と云ふ事下下内は此の
て諸藩のいふ事と云ふ事此の勅令を
今尚教令を宣ひの事ありて此の
彼事ありては此の事ありて此の
傳りて事ありては此の事ありて
此の事ありては此の事ありて
此の事ありては此の事ありて

上上 相模谷 秀松 中上
此は此の地は勅令後美濃守下全
他は及至勅令と云ふ事下下内は此の
て諸藩のいふ事と云ふ事此の勅令を
今尚教令を宣ひの事ありて此の
彼事ありては此の事ありて此の
傳りて事ありては此の事ありて
此の事ありては此の事ありて
此の事ありては此の事ありて

上上 中 松久忠 中上
此は此の地は勅令後美濃守下全
他は及至勅令と云ふ事下下内は此の
て諸藩のいふ事と云ふ事此の勅令を
今尚教令を宣ひの事ありて此の
彼事ありては此の事ありて此の
傳りて事ありては此の事ありて
此の事ありては此の事ありて
此の事ありては此の事ありて

昔は... 風... 二... 上上



中村八重

上上... 小川... 十本... 元形之部

上書

小川吉太郎 中出

上上... 千秋万歳

千秋万歳

菅原傳授の習鑑
 菅原傳授の習鑑
 菅原傳授の習鑑



男也又居金
 う木堂の殿
 ごろく居居



檀浦魁軍記
 とうくあはれ殿
 琴のせもの候



竹田金文
 竹田金文
 竹田金文

上上中 市川井 彦 坂田丸

八子つちさふわい付栢子

上上書 坂田者十帝 中村丸

八年ぶつてはアまの秋也

上上 津山友彦 日丸

冬で東の風と吹けり

上上 山中平九帝 市村丸

中村七次 中村丸

上上 市川彰四帝 日丸

中村中彦 市村丸

上上 坂東権又帝 市丸

坂東佑十帝 日丸

上中村修若中 上尾上依之助市

▲角變之部

上上 松平幸四帝 中村丸

社又つて授きさるる所也

上上 坂東権三帝 市村丸

そつていふものなり

上上 中村竹彦 市丸

上上 大谷鬼治 市丸

上上 坂東又右帝 日丸

上上 坂村漢六帝 市丸

上上 中村務又帝 中村丸

▲実徳之部

上上吉 中村助又帝 市丸

実徳のついでに後者も入

上上吉 中村敬右帝 中村丸

まゝ年々つて居るなり

上上吉 坂村宗十帝 市丸

二君たりといふこと

上上吉 坂村森十帝 中村丸

まゝの実徳へあつて後者も

上上吉 坂田守又帝 市丸

うらそつていふこと

上上吉 坂村者又帝 市丸

何れもいひのちをり

上吉 中津三浦第門 吉田丸
と敬徳のふりかぶる款

▲款波之形

上吉 中津初九第門 中村丸

と敬徳のふりかぶる款

上吉 中津三浦第門 吉田丸

款波丸とわういせり

上戸 吉村十第 中村丸

又してもいっただきその出

上戸 大谷由第 市村丸

心重み及てても悪くあがり

上戸 坂田九十第 中村丸

まんまて款波ふら下付

上戸 文島十第 市村丸

わてしともあとの考長云

上戸 市川門第 吉田丸

上戸 中村九第 市村丸

上戸 文川八第 市村丸

上 大谷力第 市村丸

上 中津初六中 中津初第 吉田丸

上 中津幸良第 上津村第 吉田丸

上 上津村大次市 上中津初第 吉田丸

上 中津村第 吉田丸

上 上津村全第 上中津初第 吉田丸

上 上津村十第 上津村第 吉田丸

▲乃外形之形

上吉 嵐音八 吉田丸

上上 大谷南北 市村丸

上戸 吉村十第 中村丸

上 吉村第 市村丸

上 市川久第 中村丸

上 市川第 市村丸

▲乃車形之形

上 市川第 市村丸

上 市川第 市村丸

正徳四年春良夫正松平大三良中

▲若女形之流

極上吉 中村富十郎 市村

三ヶの津で法華の花乃

上上吉 嵐富之助 市村

田原の浦で法華の花乃

上上吉 依野川市松 市村

若元と若飛との引合

上上吉 総角林 市村

表田にみついて飛あり

上上吉 嵐新野 市村

乃女ちへひりい乃を立

上上 濃川菊之助 市村

仲原をめぐり乃を立

上上 久本辰之助 市村

辰くと若飛の引合

上上吉 小依川市松 市村

やう十ヶのころ乃を立

上上 芳沢八郎 市村

出世が乃を立乃を立

上上 沢村小治次 市村

物づへあり乃を立

上上 依野川十右 市村

松十右へ乃を立乃を立

上上 中村松之助 市村

どこの乃を立乃を立

上上 嵐小治三 市村

三景の乃を立

上上 中 王友川徳之助 市村

三景の乃を立

上上 ▲若飛形之流

上上 柳山三入彦 市村

口乃を立乃を立

上上 玉沢松代助 市村

乃を立乃を立

上 松十郎 市村

上 市川秋十帝 表田記

上 表野大御 中村記

上 松平山左 日記

上 市川小右衛門中 上流中流為松中

上 市川小右衛門市 上流川流為松中

上 市川小右衛門市 上流川流為松中

上 市川小右衛門市 上流川流為松中

上 市川小右衛門市 上流川流為松中

上 市川小右衛門市 上流川流為松中

上 市川小右衛門市 上流川流為松中

上 市川小右衛門市 上流川流為松中

上 市川小右衛門市 上流川流為松中

上 市川小右衛門市 上流川流為松中

上 市川小右衛門市 上流川流為松中

上 市川小右衛門市 上流川流為松中

上 市川小右衛門市 上流川流為松中

上 市川小右衛門市 上流川流為松中

上 市川小右衛門市 上流川流為松中

上 市川小右衛門市 上流川流為松中

上 市川小右衛門市 上流川流為松中

上 市川小右衛門市 上流川流為松中

▲子波之部

上上吉 中村神又帝 市川記

上上吉 市村長吉 日記

上上吉 表田幼次帝 表田記

上上吉 坂東本吉 日記

上 市川小右衛門中 上坂東本吉表

上 市川小右衛門中 上坂東本吉表

上 市川小右衛門中 上坂東本吉表

▲中村氏父子之部

上 市川小右衛門中 上坂東本吉表

上 市川小右衛門中 上坂東本吉表

上 市川小右衛門中 上坂東本吉表

上 市川小右衛門中 上坂東本吉表

上 市川小右衛門中 上坂東本吉表

上 市川小右衛門中 上坂東本吉表

上 市川小右衛門中 上坂東本吉表

▲市村氏父子之部

上 市川小右衛門中 上坂東本吉表

上 市川小右衛門中 上坂東本吉表

上 市川小右衛門中 上坂東本吉表

上 市川小右衛門中 上坂東本吉表

上 市川小右衛門中 上坂東本吉表

上 市川小右衛門中 上坂東本吉表

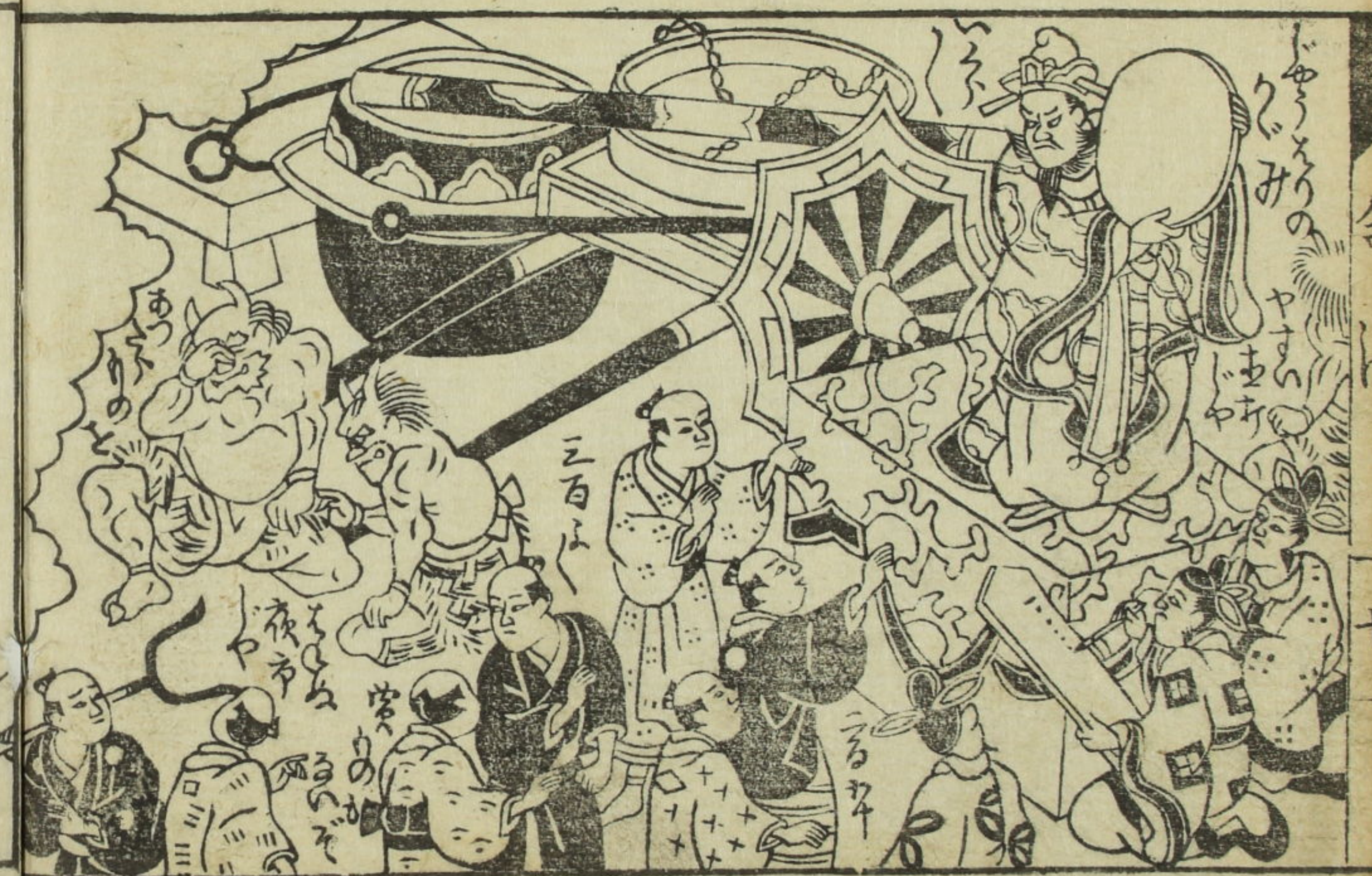
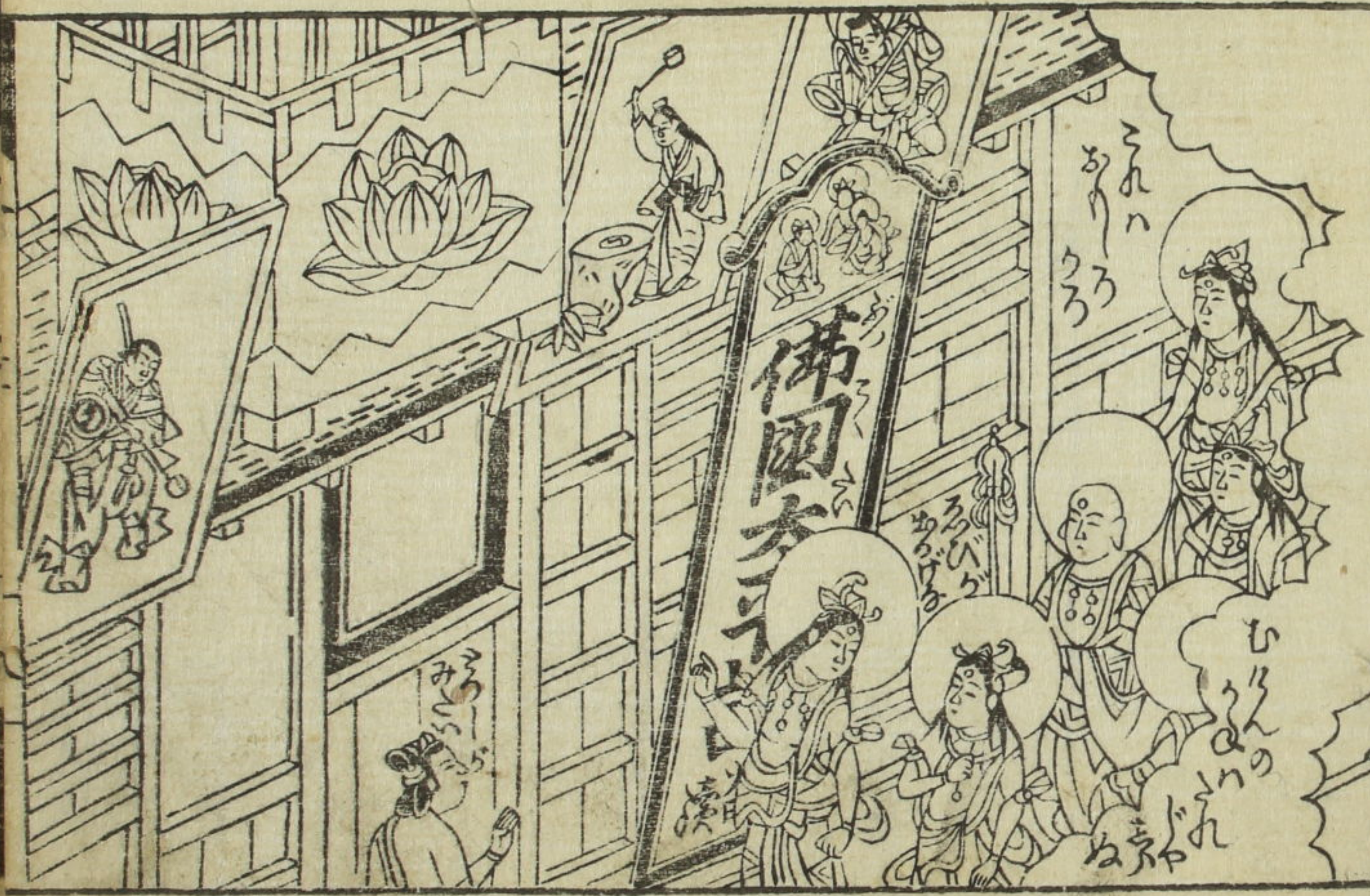
上 市川小右衛門中 上坂東本吉表

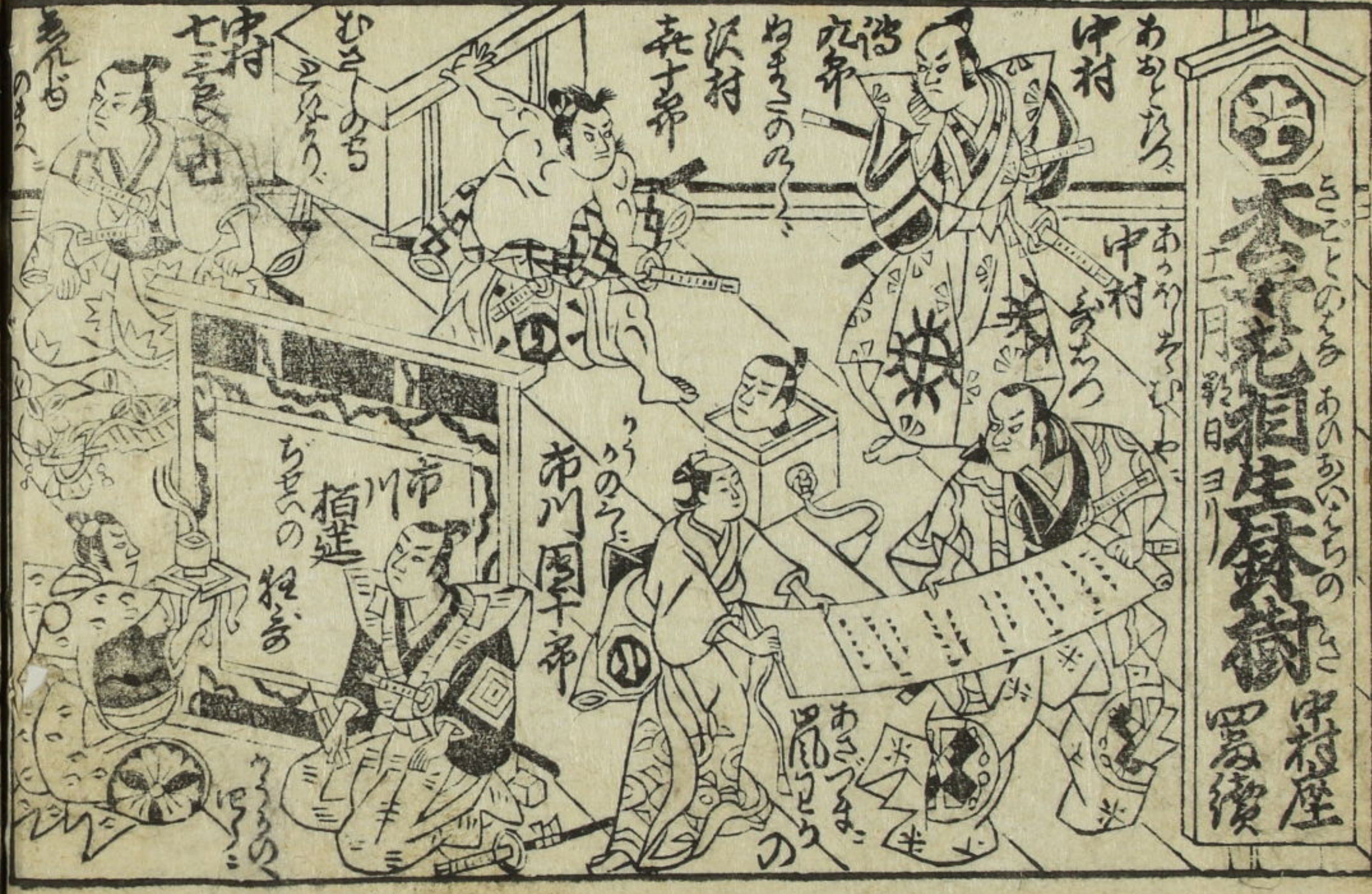
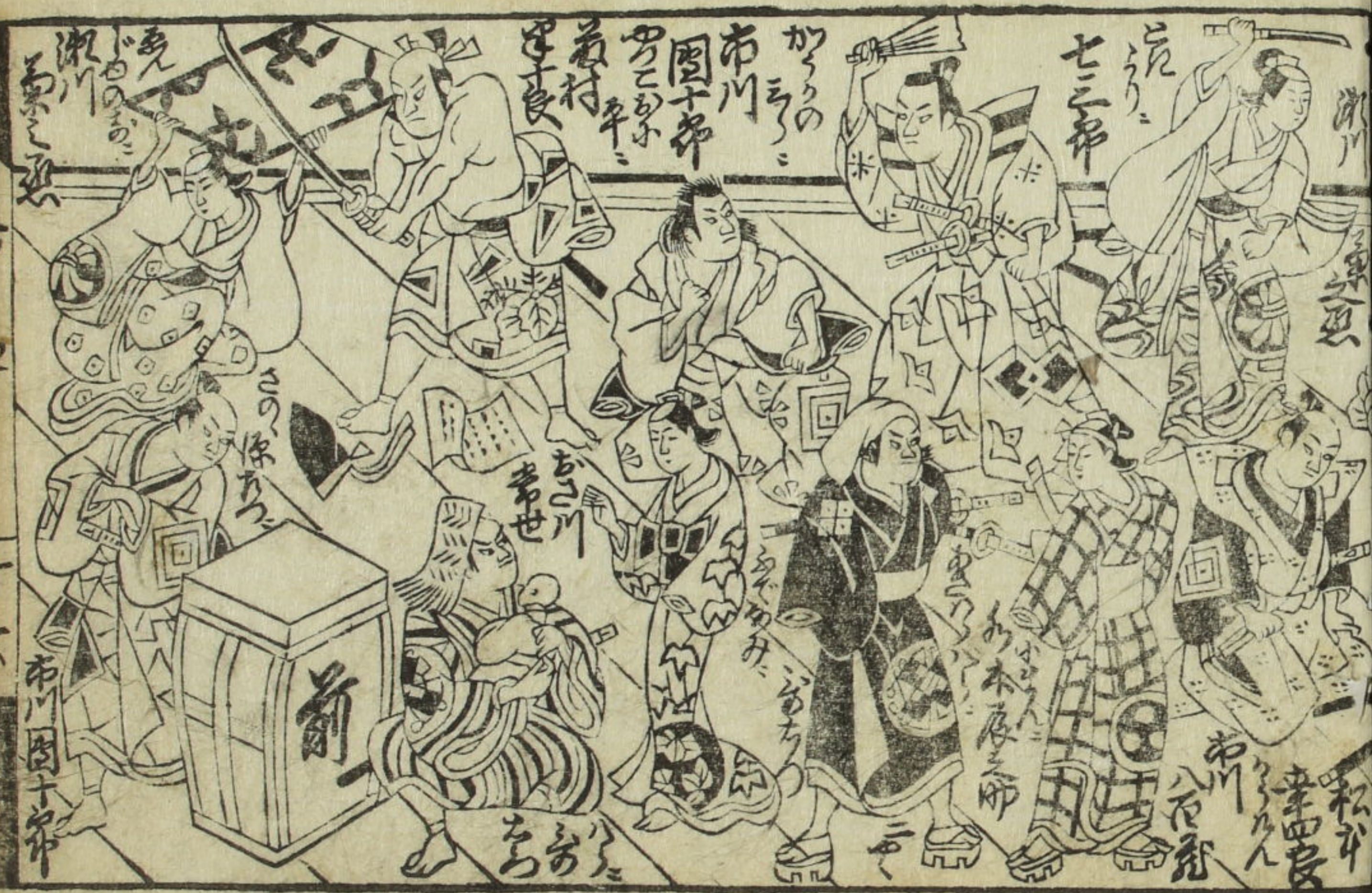
▲表田氏父子之部

上 市川小右衛門中 上坂東本吉表

上 市川小右衛門中 上坂東本吉表






上 市川小右衛門中 上坂東本吉表








上上  津山友彦 中村


此書は津山の津山友彦の著書である。津山友彦は、津山の名家である。この書は、津山の歴史や文化について詳しく述べている。津山の歴史は、古くから栄えた。津山の文化は、独特である。津山の歴史は、津山の文化を形作る。津山の文化は、津山の歴史を伝える。津山の歴史と文化は、津山の魂である。

上上  山中平九郎 市村
上上  中村七次 市村
上上  市川新五郎 市村
上上  中村中彦 市村
上上  坂本清次郎 市村

上  坂東依十郎 市村
上  中村信吉 市村
上  尾上依重 市村

此書は、津山の名家の著書である。津山の歴史や文化について詳しく述べている。津山の歴史は、古くから栄えた。津山の文化は、独特である。津山の歴史は、津山の文化を形作る。津山の文化は、津山の歴史を伝える。津山の歴史と文化は、津山の魂である。

▲角髪之部

上上  松本孝定 市村
此書は、津山の名家の著書である。津山の歴史や文化について詳しく述べている。津山の歴史は、古くから栄えた。津山の文化は、独特である。津山の歴史は、津山の文化を形作る。津山の文化は、津山の歴史を伝える。津山の歴史と文化は、津山の魂である。

茶の飛香及び今由る茶葉の精製
内家福壽堂の精製茶葉の精製
茶葉の精製茶葉の精製茶葉の精製
茶葉の精製茶葉の精製茶葉の精製

上上 坂本三郎一市製

上 坂本三郎一市製

上 坂本三郎一市製

上 坂本三郎一市製

上 坂本三郎一市製

上 坂本三郎一市製

上 坂本三郎一市製

上 坂本三郎一市製

上 坂本三郎一市製

上 坂本三郎一市製

上 坂本三郎一市製

上 坂本三郎一市製

上 坂本三郎一市製

上 坂本三郎一市製

上 坂本三郎一市製

上 坂本三郎一市製

上 坂本三郎一市製

上 坂本三郎一市製

上 坂本三郎一市製

上 坂本三郎一市製

上 坂本三郎一市製

上 坂本三郎一市製

上 坂本三郎一市製

上 坂本三郎一市製

茶の飛香及び今由る茶葉の精製
内家福壽堂の精製茶葉の精製
茶葉の精製茶葉の精製茶葉の精製
茶葉の精製茶葉の精製茶葉の精製

上上 坂本三郎一市製

上 坂本三郎一市製

上 坂本三郎一市製

上 坂本三郎一市製

上 坂本三郎一市製

上 坂本三郎一市製

上 坂本三郎一市製

上 坂本三郎一市製

上 坂本三郎一市製

上 坂本三郎一市製

上 坂本三郎一市製

上 坂本三郎一市製

上 坂本三郎一市製

上 坂本三郎一市製

上 坂本三郎一市製

上 坂本三郎一市製

上 坂本三郎一市製

上 坂本三郎一市製

上 坂本三郎一市製

上 坂本三郎一市製

上 坂本三郎一市製

上 坂本三郎一市製

上 坂本三郎一市製

上 坂本三郎一市製

内無く... 合

... 合

... 合

... 合

... 合

... 合

... 合

... 合

... 合

... 合

... 合

... 合

... 合

... 合

... 合

... 合

... 合

... 合

... 合

... 合

... 合

... 合

... 合

... 合

... 合

... 合

... 合

市川海老原のふりものあり
福と運との中村の室の両村の
金箔の山を回す所を
さうく
め

宝曆九年

卯正月吉日

本

東越前河津

八

